

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名	静岡県立浜松聾学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	35名

1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板 昇降スタンド付
使用学年及び人数	小学部 6年 3名
使用頻度	毎日
使用状況	<p><各教科での活用> 主に国語・算数・社会・外国語の授業にて活用</p> <p>①資料の拡大提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科: グラフや表、地図など ・算数: 三角錐、円柱など様々な図形を表示 作図やグラフ化など ・外国語: デジタル教科書の活用 <p>②インターネットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで必要な情報を収集し、提示 ・社会: 動画の視聴 <p>③情報や思考の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台タブレットと共有し、子どもの考えを一覧にして表示
物品の使用による 変化や効果 ※1年目との違いを含めご記入ください。	<p>①資料の拡大提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料を簡単に鮮明に拡大提示でき、視覚支援の充実に繋がっている。 ・電子黒板に直接ポイントや解き方、手順などを書き込めることで、全体の情報共有に有効。 ・教師が図形を手書きするよりも、正確に速く提示し、更に何回も書き込んだり、消したりすることができるため、効率よく、効果的な視覚支援が行えている。 <p>②インターネットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問点や詳細情報について、その場で調べ、すぐに全体で共有できるため、生徒の学習意欲の向上と問題解決能力の向上に繋がっている。 ・一人一台タブレットとの連携で視覚的に思考の確認や共有ができています。
今後の活用の見通しや課題	<p>聴覚特別支援学校の幼児児童生徒数は減少しており、学習集団が小人数化している中で、学習集団を校内だけではなく、他校との連携で確保していくことで、協働的な学びを保障していく必要がある。電子黒板をはじめICTを活用した学習を推進することは、個別最適な学びと協働的な学びの両立に必要な不可欠になっていくと思われる。</p>
その他 希望や所感など	

2. 活用の様子

① 児童が電子黒板に図形を直接書き込んでいる様子。



② 外国語の授業でデジタル教科書を使用し、ネイティブの発音で流れる英語の歌に合わせて歌っている様子。



③ 算数の授業で、円柱の展開図を動画で確認している様子。
児童のタブレットとも連携して活用している。

